

第4章

地域の行動

第4章 地域の行動

環境市民会議の取組

地域の環境を保全し、回復させるには、市の環境施策を推進するとともに、市民・事業者の自発的な環境保全活動が不可欠となってきます。

環境基本計画では、地区ごとにめざす環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現状・課題を整理し、その解決に向けた主な取組などを「地域の行動」として示しています。この地域の行動は、環境市民会議によって策定されたものです。

本章では、環境市民会議が各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の活動や取組を報告します。皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、「知る、考える、行動する」きっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

環境市民会議は、八王子市環境基本条例に基づき、市内を6地区に分け、各地区の市民・事業者によって自発的に環境保全活動を実践する組織として設立されました。市民・事業者が自ら、身近な環境について話し合い、地区内の環境をより良くするために行動しており、小・中学生を対象とした環境教育の支援や自然体験講座、省エネ教室、ごみの分別講座等の活動を行うなど、地域における環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

6 地域の位置図



中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

中央地区は、えきまえテラスの完成や八王子駅南口集いの拠点の整備開始、また各地域におけるマンション建設の進行により変化しつつあります。中央を流れる浅川周辺は災害時でも安心して過ごせるよう整備され、市民の散歩、憩いの場となっています。その浅川において定期的にごみ拾いや生物の調査、水質検査等を実施することで、皆が気持ち良く過ごすことができ、景観を保つ努力をしています。しかし、人目に付きづらい箇所は、不法投棄やごみが残されている状況ですが、小学生向けの川の学習や自然観察会等を通し、誇れるまちにしていく活動を継続します。

中央地区の主な取組

①地球温暖化防止のためのライフスタイルの推奨

- ▶ 地球温暖化防止活動推進員として家庭グループの打ち合わせを実施
- ▶ 家庭の省エネ講座を4回企画するほか、学童保育所にて、地球温暖化防止の大切さについて楽しく学べる出前講座を計27回開催
- ▶ 中野七夕まつりなどで、温暖化防止について自分事としてとらえてもらうための周知啓発を実施



学童保育所での出前講座

②海洋プラスチック問題等環境負荷問題への対応

- ▶ 浅川河川敷において清掃活動を4回実施し、延べ29名が活動
- ▶ 環境フェスティバル、市民センターまつり、いちょう祭りに参加し、ごみが環境負荷にならないような生活への転換について周知啓発を実施するとともに、海洋プラスチック問題についてクイズを用いて問題の大きさを伝え、普段の生活でなるべくプラスチックの依存を減らした生活を推奨



中野市民センター七夕まつりでの活動

中央地区の主な取組

③エコひろば・八王子浅川水辺の楽校運営協議会と連動した環境教育活動の支援

- ▶ 総合的な学習などを活用した環境教育支援事業である「川の学習」について、小学校7校（参加児童数：462名）に対して支援を実施
また、「みどりの学習」について、小学校1校（参加児童数：29名）に対して支援を実施
- ▶ 川に関する基本的な知識を学び、市内小学校等の環境教育を支援する人材を養成する「川の学習サポーター養成講座」に講師として参加するほか、「川の学習支援者スキルアップ講座」への支援を実施
- ▶ 八王子浅川水辺の楽校運営協議会の活動支援として、ガサガサ探検隊支援や水辺のイベント支援、水質評価指標生物調査支援などで合計14回支援し、延べ68名が活動

春季と秋季に浅川観察やメタセコイア化石観察など行う「自然体験講座」を3回（参加市民数：延べ29名）開催



「川の学習」の様子

④まちのみどりの保全

- ▶ 学校で緑に親しんでもらう活動として、第一小学校の校庭にある樹木に名札付けを実施
- ▶ 明神町なかよし公園花壇の花植え支援を、季節に合わせて4回実施し、延べ13名が活動
- ▶ 環境グリーンマップを450部増刷し、参加イベントで配布
- ▶ 地区内の居住区域において、年2回、3か所を対象に簡易測定により二酸化窒素測定調査を実施



「自然体験講座」の様子

中央地区の主な取組

⑤河川を対象に巡回・調査・保全活動

- ▶ 浅川、山田川などで河川巡回を合計14回実施し、延べ21名が活動
また、河川巡回で見つかった課題別巡回（ごみ回収、監視、草花や野鳥の観察）を合計16回実施し、延べ23名が活動
- ▶ 河川のごみ回収活動に延べ46名が参加し、可燃ごみ56袋、不燃ごみ14袋を回収
- ▶ 浅川・南浅川・川口川を対象に河川調査（水質・水生生物）を合計8回実施し、延べ24名が活動
また、浅川沿いの湧水集水溜り調査（流量・水質・水生生物）を合計6回実施し、延べ30名が活動
- ▶ 巡回・調査結果を、はちおうじ環境だよりに掲載するほか、浅川流域連絡会や川サポマネージャー活動、浅川流域市民フォーラム事務局などに報告
また、環境フェスティバル、環境パネル展、あったかホール生きもの展示などに展示

⑥緑地保全活動への支援活動

- ▶ 館クリーンセンター内緑地保全活動（館さとやまくらぶ）と連携し、場内の草刈り、枯れ木伐採、腐葉土作成、サクラの植樹、園路の整備、竹林の整備などを合計10回実施し、延べ14名が活動
- ▶ 戸吹クリーンフェスタ2024に支援参加し、間伐材を使用したクラフト体験コーナーを開催

特色のある取組

- ▶ 浅川における環境教育を題材とした取組動画が、環境省が主催する「環境教育・ESD実践動画100選」に選定
- ▶ 地球温暖化防止の大切さについて楽しく学べる出前講座を、例年より開催回数を増やし、27回実施



「湧水集水溜り整備・調査」の様子



「環境教育・ESD実践動画100選 認定式」の様子

北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

地区の東エリアは住宅地が広がっており、中には保全緑地として昔からの緑が保存されている箇所も見られます。西エリアは南・北加住丘陵に代表される豊かな緑が残っていますが、手入れが行われていない樹林地も存在しています。地区の中央には谷地川が流れ、上流では昔からの自然護岸が残っています。中流域では護岸工事が進められています。

また、中央エリアは国道16号・20号、16号バイパス、新滝山街道のほか、中央自動車道八王子ICも近く、交通の要衝となっており、大型商業施設の開発工事が進んでいます。このことから、大気汚染の状況にも注視しています。近年は、濃度が改善傾向にありますが、16号バイパスの一部ではまだ数値が高い地点が見られます。

その他にも、人目に付きにくい場所へのごみの不法投棄対策や環境保全意識の啓発、地区の貴重な自然・文化・歴史を知る機会の提供など、さまざまな分野でITツールを活用した対応を行っていく必要があります。

北部地区の主な取組

①谷地川の調査と清掃活動

- ▶ 谷地川の水質調査（COD、水温、PH、電気伝導度）を5回実施
- ▶ 谷地川の環境を市民に理解してもらうため、環境フェスティバル及び石川市民センター文化祭で谷地川の生物を展示
- ▶ みんなの川と町の清掃デーと合わせて、地元自治会と協働して谷地川の清掃活動を計画（天候不良により中止）

②緑地保全活動

- ▶ 地区内の環境活動団体と協働し、都の緑地保全地域及び市の緑地等（計7か所）で、保全・整備活動を実施



谷地川の調査地点(新旭橋)

北部地区の主な取組

③環境教育・環境学習などの推進

- ▶ 市内の他団体と協働して、大和田小学校、第八小学校、中野区在住の青少年を対象に、里山林の意義と活用の仕方を学ぶ活動を3回実施し、楽しみながら自然を体験し学ぶ場を提供
- ▶ 外来種「アメリカオニアザミ」の生体標本を採取し、環境フェスティバルにて市民へ紹介するとともに、危険性を周知
- ▶ 総合的な学習などを活用した環境教育支援事業である「川の学習」について、小学校1校（参加児童数：22名）に対して支援を実施
- ▶ 滝山城跡やカタクリの里を巡る「自然体験講座」を2回（参加市民数：延べ30名）開催



谷地川旧河川のオオキンケイギク

④大気汚染測定

- ▶ 地区内の幹線道路などにおいて、年2回、45か所を対象に、簡易測定により二酸化窒素測定調査を実施
- ▶ 地区内の都市計画道路工事中地点などにおいて、今後の変化データを取得するための測定地点を計画



八王子IC北で開発が進む商業施設

北部地区の主な取組

⑤地域との協働活動の推進

- ▶ 環境フェスティバルに出展し、大型モニターを活用した北部地区活動の紹介や外来種アメリカオニアザミの駆除活動を紹介
- ▶ 加住市民センター及び石川市民センターで、パネル展示や谷地川の生物展示を実施し、地域市民に生物多様性や自然環境について啓発
また、アメリカオニアザミのチラシ配布による注意喚起を実施
- ▶ 東京都の主催する東京グリーンシップ・アクションに参加し、合計4社の法人に対して、緑地保全活動の機会を提供



緑地での萌芽更新の説明

特色のある取組

- ▶ 外来種である「アメリカオニアザミ」の危険性について周知し、駆除を呼びかけるための周知や啓発活動を実施
- ▶ ITツールの活用が進んでいる若い世代にも理解が進むことを考え「北部地区環境市民会議」のホームページの作成に着手



北部地区環境市民会議のHP

西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

西部地区は、西側から市街地に向かっていくつかの丘陵と北浅川や川口川が流れ、今熊山、金剛ノ滝、天合峰があり自然に恵まれた地域と言えます。これらの自然を守るため、大気汚染測定、川の水質調査、里山保全活動を行った結果、さまざまな生物が戻りつつあります。

当地区では「八王子市みどりの基本計画」に則り、八王子市景観100選に選ばれた「上川の里特別緑地保全地区」を環境教育の場として活用し、学習資料も兼ねたマップ作成も進めています。この里山は、四季折々の花が楽しめ、6月にはホタルが飛び交い、秋には棚田が黄金に輝き癒やされる場所です。

西部地区の主な取組

①環境教育の支援活動

- ▶ 総合的な学習などを活用した環境教育支援事業である「川の学習」について、小学校6校（参加児童数：342名）に対して支援を実施
また、「みどりの学習」について、小学校1校（参加児童数：14名）に対して支援を実施
- ▶ 式分方小学校の4年生を対象とした環境教育において、生ごみの減量や堆肥としての生ごみの再利用などを通じて、ごみ減量の意識を向上させるための学習支援を4回実施し、延べ12名が活動

②自然体験講座

- ▶ 高尾の森自然学校での自然散策や木工工作などを体験する「自然体験講座」を1回（参加市民数：延べ40名）開催



川の学習

西部地区の主な取組

③里山、河川、公園の環境保全活動

- ▶ 上川の里特別緑地保全地区において、田んぼの維持管理や上川口小学校の児童を対象にした稲作体験授業の支援、ホタル観賞会などを実施し、延べ26名が活動
また、市が主催する親山里山探検隊（参加市民数：48名）の実施に協力
- ▶ あらい公園の清掃活動を4回実施し、延べ18名が活動
- ▶ 大沢川及び城山川の清掃活動を合計5回実施し、延べ29名が活動

④河川と湧水の水質調査

- ▶ 「身近な水環境の一斉調査」に協力し、大沢川水系及び城山川水系の水質調査を実施するとともに、地区内の湧水・伏流水や大沢川水系・城山川水系の水質調査を実施し、延べ6名が活動

⑤大気汚染測定

- ▶ 高尾街道、陣馬街道の主要道路付近を中心とした地点において、年2回、12か所を対象に、簡易測定による二酸化窒素測定調査を実施

特色のある取組

- ▶ 環境フェスティバルに参加し、「上川の里」の植物や昆虫、水生生物などの貴重な写真を展示し、川口地区の豊かな自然をPRした



親山里山体験



上川の里における稲作体験授業支援

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山は年間300万人が訪れる、豊かな自然や史跡などの宝庫です。当地区では、自然観察や環境パトロールを行い、植生・生きもの・景観・周辺の案内板などの変化を記録するとともに、保全関係者と情報交換の機会を作り、意義のある調査活動をめざしています。

湯殿川では、水辺環境の改善によって多様な水生生物が見られるようになり、蛍の生息域は年々広がっています。しかし、粗大ごみやプラスチックごみが多いため、地域と協力して川の清掃に取り組んでいます。一方、南浅川では、近隣の町会と協働で川床のごみ拾いなどを行い、水辺環境の改善に努めています。川の生きもの調査をスタートして3年目、南浅川は異常気象の影響で瀬切れが近年続いており、川の生態系にどのような影響を及ぼしているか定期的に調査を行っています。

西南部地区の主な取組

①高尾山の環境保全活動

- ▶ 登山道の安全性や景観の確認、自然観察のためのパトロールを3回実施し、延べ19名が活動
- ▶ 高尾山の一極集中を緩和するための案内板の設置を提案
- ▶ 関係3団体との協働により、小仏川の遊歩道や野草園の保護作業を実施し、3名支援活動

②地域の宝の掘り起こし

- ▶ 小仏川沿いの史跡等を巡る「自然体験講座」を秋季に1回（参加市民数：20名）開催
- ▶ 地区内59か所における巨木等の調査結果に関するマップを500部発行



秋の自然体験講座「小仏川沿いを歩く」

西南部地区の主な取組

③里山の保全活動

- ▶ 小仏川沿いの「早春の野草観察」及び池の沢にて親子向けの「里山体験隊」の「自然体験講座」を2回（参加市民数：延べ42名）開催
- ▶ 関係団体と協働により、館町緑地保全地域（池の沢）の景観づくりや生きものの生息生育環境の整備を実施
また、ホタルの生態調査を実施

④親しみのある水辺環境の構築

- ▶ 「身近な水環境の一斉調査」にて、7河川18か所の水質を調査し、6名が活動
- ▶ 河川内（湯殿川、南浅川）のごみ回収活動に延べ23名参加し、可燃ごみ9袋、不燃ごみ3袋、有害ごみ1袋などを回収
- ▶ 水辺の環境調査としてホタルの飛翔調査を約40日間実施
また、特定外来生物「アレチウリ」の調査を実施し、河川管理者に対して報告するほか、駆除活動を試行実施
- ▶ 水生生物の定点観察を2回実施し、延べ9名が活動

⑤生活環境保全

- ▶ 地区内の幹線道路などを対象に、年2回、25か所を対象に、簡易測定により二酸化窒素測定調査を実施し、延べ12名が参加
- ▶ 殿入中央公園周辺において不法投棄パトロール及び清掃活動を実施、6名が参加し、可燃ごみ3袋、不燃ごみ1袋などを回収
- ▶ 景観の変化など景観保全に関する情報を収集し、会全体で共有



里山探検隊（池の沢）



不法投棄パトロール

西南部地区の主な取組

⑥環境教育支援

- ▶ 教育現場である河川の近隣町会との交流として、南浅川サマーレクリエーション（参加市民数：55名）を開催
- ▶ 総合的な学習などを活用した環境教育支援事業である「川の学習」について、小学校5校（参加児童数：284名）、当会独自支援3校（参加児童数：198名）に対して支援を実施
また、「みどりの学習」について、小学校1校（参加児童数：106名）に対して支援を実施



川の学習（案内川）

⑦地域の活動との連携

- ▶ いちよう祭りにおいて発生するごみの分別指導や学生を対象としたごみ分別の事前説明会の開催など、合計4日間で延べ23名が活動
- ▶ 地域の町会や団体からの要請を受け、水質調査や生き物調査の支援を2回実施し、延べ14名が活動
- ▶ 環境フェスティバルや環境パネル展、3市民センター祭り（長房、横山南、浅川）に参加し、水生生物や活動内容を周知する展示を実施

特色のある取組

- ▶ 喫煙マナーアップキャンペーンに参加
- ▶ 南浅川生き物調査（河川管理者、公園管理者の募集行事）に参加



いちよう祭りにおけるごみ分別活動

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

数年前から発生し始めたナラ枯れの被害は深緑の中に枯れ木が点在し、強風で落枝や倒木の危険があります。この現象は長い間、手入れされなくなった里山の各所で見られ継続的な山の手入れの必要性を感じます。また、雑木林に竹が侵入して里山としての維持が難しくなっています。手入れをする担い手が不足し、みどりの減少とともに深刻な問題です。

令和6年度の河川の状況は浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点で行った水質調査によると、COD値は1～3mg/Lを示しています。しかし、橋の下や河川に降りられる場所ではごみのポイ捨てが多くモラルの悪さを感じます。その中にはプラスチックごみが多く、川から海へと流れ、マイクロプラスチック問題となっています。人がしたことが魚だけでなく、水鳥や人間にも害を及ぼすのです。

大気汚染調査は年2回、地区内9か所を継続して行っていますが、昨年より良い傾向になっています。国道16号バイパス付近はやや上昇みで注視していく必要があります。

東南部地区の主な取組

①駅周辺のきれいさ評価や公園、川、町の清掃活動

- ▶ JR片倉駅や八王子みなみ野駅など地区内の6駅において、駅周辺の清掃及びごみの分類、数量を集計する「きれいさ評価」を2回実施し、延べ12名が活動
- ▶ 公園アドプト制度を活用し、大塚山公園の清掃を12回実施し、延べ44名が活動

②河川の水質調査と大気汚染調査

- ▶ 「身近な水環境の一斉調査」にて、5河川14地点の水質を調査し、5名が活動
- ▶ 地区内の幹線道路などにおいて、年2回、9か所を対象に、簡易測定により二酸化窒素測定調査を実施



水質調査の様子

東南部地区の主な取組

③環境フェスティバル・市民センターまつりへの出展

- ▶ 地域住民の環境への関心を高めるため、環境フェスティバルや市民センターまつり、環境パネル展で会の活動内容や地区内の自然環境に関する啓発活動を実施し、延べ23名が活動
また、リニューアルしたハイキングマップを配付

④子どもたちに環境をテーマとした講座の開催・ 川の学習支援、みどりの学習の支援

- ▶ クールセンター八王子との共催により、太陽熱の実験などを行う親子向けの「ソーラークッキング」を1回（親子9組参加）開催
- ▶ 総合的な学習などを活用した環境教育支援事業である「川の学習」について、小学校2校（参加児童数：129名）に対して支援を実施
また、「みどりの学習」について、小学校1校（参加児童数：159名）に対して支援を実施

⑤地域の自然や歴史の調査、勉強会、自然体験講座の実施

- ▶ 湯殿川の野鳥観察や宇津貫緑地の里山探検などを行う「自然体験講座」を3回（参加市民数：延べ61名）開催
- ▶ 学習会を東京都埋蔵文化財センターにて実施し、延べ9名が活動

特色のある取組

- ▶ 宇津貫緑地において、新竹の整備や古竹の伐採などの竹林整備を継続して実施
令和6年度は、3回実施し、延べ23名が活動



自然体験講座



整備後の竹林と横断幕

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部（旧由木村）地区の北側は多摩丘陵が東西に走り、南側は多摩ニュータウンとして、それぞれにみどりの景観が形成されています。昭和57年に「南陽台の自然を守る会（現：多摩丘陵の自然を守る会）」が発足して以来、およそ40年に渡り、多くの住民の努力によって、多摩ニュータウン・由木の里山保全活動が続けられてきました。清浄な空気や水の供給源である、みどり連なる多摩丘陵の里山を維持することで、人の生活と多様な生きものの生活環境を守ることができます。環境省が指定する重要里地里山500のうち2か所が当地区にあり（都内では8か所）、別所にある長池公園（面積9.8ha）、堀之内にある堀之内寺沢里山公園（面積5.2ha）が整備されています。

また、同じく堀之内にある宮嶽谷戸は、都から市に管理が移管されたことに伴い設置された宮嶽池検討会（当会より委員を2名選出）での議論も踏まえ、一定の整備が令和6年に完了し、地域の新しい環境活動の場として利用が期待されています。

里山農業クラブ・八王子由木メカイの会を中心に活動してきたメカイ作りが令和5年3月に「南多摩のメカイ製作技術」として都の無形民俗文化財・生活技術の指定を受け「八王子由木メカイの会」が技術保存団体に認定されました。

東部地区の主な取組

①里地里山の保全活動

- ▶ 整備の完了した宮嶽池の活用や保全活動に参加
- ▶ 長池公園や沖ノ谷戸公園などの田んぼで、管理・収穫体験や自然観察を開催するほか、民俗習慣の継承に向け、門松やしめ縄作り、どんど焼きなどを実施
- ▶ 宮嶽谷戸にて自然体験や竹工作などを行う親子向けの里山環境保全活動を開催（親子8組参加）
- ▶ 地域の保全活動団体や学生ボランティアとの協働により、宮嶽谷戸や大柴原谷戸の整備活動を実施
- ▶ ヤマユリ、ノハナショウブ、カワモズク、ホトケドジョウ、トウキョウサンシショウウオ等の保全活動の実施



宮嶽池

東部地区の主な取組

②豊かな緑の環境維持

- ▶ 地域の清掃活動として「みんなの町の清掃デー」に参加

③環境のモニタリング

- ▶ 由木地区内の居住区域において、年2回、6か所を対象に、簡易測定により二酸化窒素測定調査を実施
- ▶ 「身近な水環境の一斉調査」にて7か所の水質を調査するとともに、大栗川等で大腸菌の定点測定を実施

④環境教育の支援

- ▶ 総合的な学習などを活用した環境教育支援事業である「川の学習」について、小学校2校（参加児童数：161名）に対して支援を実施
- ▶ 長池公園にて、稲作と里山の自然についての学習を行う田んぼの学習を小学校1校に対して計5回実施
- ▶ カイコの飼育や絹に関する文化について学ぶカイコ・シルクに関する学習を小学校3校で実施
- ▶ 東京都指定無形民俗文化財（民俗技術）であるメカイ製作技術について、南大沢生涯学習センター等での講習会や小学校1校での実演会を実施



みんなで楽しんだ代掻き



里山（宮嶽谷戸）のヤマユリ

東部地区の主な取組

⑤市民による豊かな自然の理解の増進

- ▶ 樹木マップ・みどりの道のマップなど各種マップや地域の動植物に関するチラシ・リーフレット・写真はがきなどを発行するとともに図書館へ収蔵
- ▶ 多摩丘陵の植物観察を行う「自然体験講座」を2回（参加市民数：延べ46名）開催
- ▶ 活動の成果などの周知のため、ウェブサイトの定期的な更新を実施
- ▶ 長池公園にて、里山に関する体験イベントを多数開催

特色のある取組

- ▶ 毎月、会員又は外部の方を講師として、環境に関する学習会を開催
- ▶ 連携して活動している「多摩丘陵を守る会」が「守っていききたい多摩丘陵の自然-創立40周年を迎えて-」を発行



「由木地区 里山の野鳥」の表紙

令和6年度における環境市民会議各地区の活動実績に基づき、地区の活動実績をその地区で総括的に評価したものと、その評価に対する環境推進会議での意見を掲載しています。

<中央地区環境市民会議での総括評価>

今までの取り組みを継続実施、発展させてきた。今年度は、初めて実施する活動も多く、充実した活動が出来た。ラインワークス等を活用しペーパーレス化も進んできている。

<北部地区環境市民会議での総括評価>

コロナ禍前の、例年に近い活動ができてきたが活動できる人数が少ない。
依然として少人数の活動ながら、過去の経過も知らない世代に移行しつつあり、大型モニターやホームページなどのツールを使った活動も進められた。
市民センターの地域の市民活動に密着した取り組みなどを進めて、効率よい活動にしていく必要もあるのではないかな。

<西部地区環境市民会議での総括評価>

活動項目は多岐にわたるが、一部を除き概ね実施に至った。
小学校の川の教育支援などは、子供たちの貴重な体験になることなので、お役に立てればと思う。

<西南部地区環境市民会議での総括評価>

会員の高齢化と減少が進み、その中での活動は、「楽しく活動する」ではなく、負担を感じたと思われる。
令和6年度末の活動可能の人員は15名程である。令和6年度と同様の活動をする、フル活動の体制で臨まなくてはならない。どの地区も厳しい状況であると報告されており、会員の確保は環境市民会議全体の問題であり、環境政策課、エコひろばが主導し、検討しなければならない。

<東南部地区環境市民会議での総括評価>

下田橋周辺の清掃は人員不足で実施できなかったが、その他の活動は予定通り、実施できた。
竹林の整備も定例化し、荒れていた竹林が再生されていく様に手ごたえを感じている。更に地域の方々に関心を持って参加してしてもらうよう、啓発活動に励む。

令和6年度における環境市民会議各地区の活動実績に基づき、地区の活動実績をその地区で総括的に評価したものと、その評価に対する環境推進会議での意見を掲載しています。

<東部地区環境市民会議での総括評価>

大腸菌数調査の結果、大腸菌の汚染源として浄化槽排水が疑われた。また、河床付生物膜は高い大腸菌除去効果を持つことが判明した。全体的に高齢化が進む中、皆元気に活動継続できたことは評価に値すると思う。活動することを楽しめるように心掛けていきたい。

<環境推進会議の意見>

- ・地区の活動について、地区の特性に応じた創意工夫により活動を実施できたことは大いに評価できる。
- ・人材の不足については、多くの地区で課題となっている。自主的な活動ではあるが、継続した活動が可能となるように、行政として抜本的な対策が求められる。
- ・小学校のPTAでは有志でゴミ拾いを実施しているところもある。そのような方々とのつながりをつくることで、人材不足の解消に貢献できるのではないか。